医療法人 真生会
真生会富山病院
SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

消火器センターだより

病気の火の元早期発見・早期消火！　冬号

編集責任者　真生会富山病院　消化器センター　真野鋭志

あきらめていた方、必見！　C型慢性肝炎は治る時代になりました

戦後、ウイルス性肝炎は、集団予防接種や医療行為で、血液を介して世の中に蔓延してしまいました。1960年頃は、輸血すると半分の人が輸血後肝炎になったと言われます。1972年以降、B型肝炎ウイルスが血液製剤から除かれるようになりましたが、相変わらず輸血後肝炎は続きました。原因は、経口感染するA型肝炎ウイルス、血液で感染するB型肝炎ウイルス以外のウイルスであることまではわかりましたが、正体はつかめず、非A非B肝炎と言われていました。

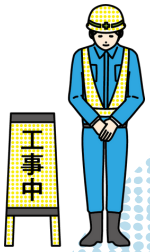
1975年には、45歳だった私の父が肝硬変による食道静脈瘤破裂で死亡しました。B型肝炎ウイルスはいなかったので、酒のためではないかと周囲から思われました。あとで振り返ると、そこまでの酒飲みではなかったと思います。私が医学生だった1988年になり、ようやくC型肝炎ウイルスが発見されたのです。

明らかになったC型肝炎の全容は、慢性化しやすく、長期間無症状でも30年、40年かけて慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌へと進行していく難治性疾患で、日本で推定150万人から200万人が罹患しているという衝撃的なものでした。

1990年代にはインターフェロンの注射で一部の人は治癒しましたが、多くの人は副作用の発熱や倦怠感と闘いながらもウイルスを排除できませんでした。強力ネオミノファーゲンC（強ミノ）を頻繁に静脈注射して、肝硬変への進行を遅らせるしかありませんでした。病院の外来は強ミノ注射を待つ人でごった返しました。21世紀になり、インターフェロンと内服薬の併用で治療成績は向上し、2014年、ついにインターフェロンを使わない内服薬だけの治療法が登場、現在２、3ヶ月飲むだけで、ほぼ100%治癒する時代になったのです。思い返すと、治療の進歩が間に合わず亡くなっていったたくさんの患者さんの顔が浮かびます。

2017年、世界保健機構（WHO）は、2030年のC型肝炎ウイルス根絶を目標に上げました。ちなみに天然痘は、1958年に計画が採択され1980年地球上からの根絶宣言が行われています。C型と言われたけれどそのままにしている人、肝炎ウイルス検査を受けたことのない人は、ぜひご相談ください。（真野）

–お知らせ–
１月には内視鏡スペースの改装工事があります。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。



食中毒にご用心！

今年8月、石川県の流しそうめんのお店で集団食中毒が発生したことは記憶に新しいです。県の調査で、利用する湧き水から食中毒の原因となる細菌**「カンピロバクター」**が検出されたと報道されました。全員が軽症で回復されていますが、腹痛、嘔吐、下痢（ときに血便）で不自由された方が多くありました。

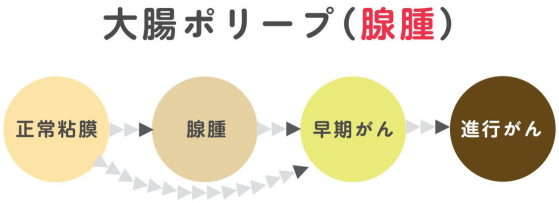
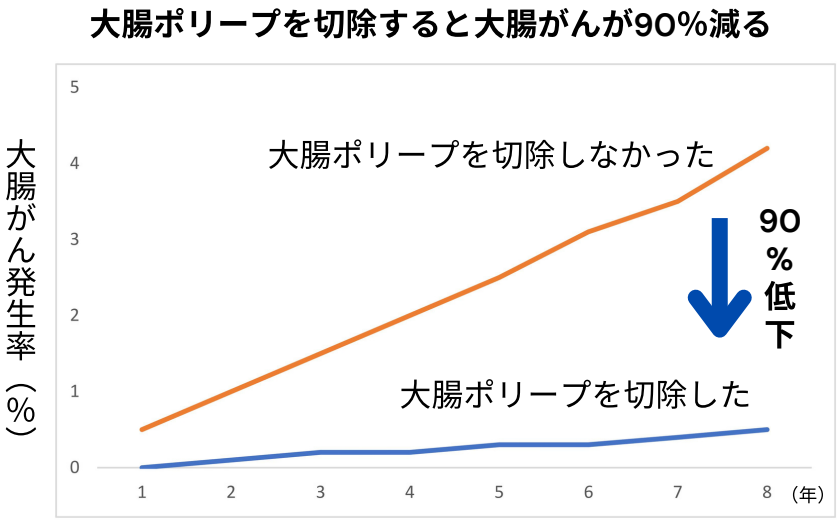
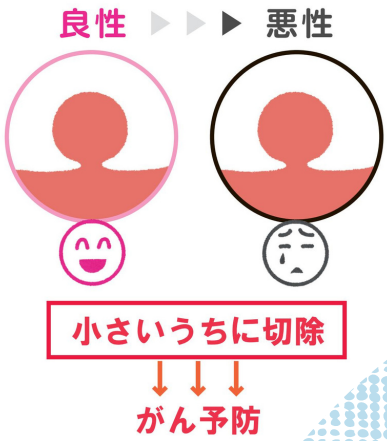
今年のような猛暑では特に食中毒が発生しやすく注意が必要です。
今回のような集団発生は注目を浴びますが、日常診療でも感染性腸炎の方は多く来院されます。

カンピロバクター

カンピロバクターは主に鶏肉に付着していますので、肉類を摂食する際には十分な加熱（中心部を75℃以上で1分間以上）に心がけてください。健康な成人が食中毒になっても、たいていは4−5日で改善しますが、水分がとれずグッタリしている、血便が出る場合は早めに受診してください。

「いのち未来学校」で講演しました。

9月24日、射水市の大門総合会館で本藤医師が「しのびよる大腸がんの危険〜ポリープをとって大腸がん予防を〜」と題して講演しました。大腸癌は大変多く、女性のガン死亡1位、男性2位となっていますが、早期に見つかればほぼ100%治ります。

大腸癌の原因は大腸にできる「腺腫」というポリープであることがわかっています。小さな腺腫のうちに切除しておけば、大腸がんを予防することができます。発見した大腸腺腫を全て摘除することを**「クリーンコロン」**といい、クリーンコロンを達成すると大腸がん発生率を90%低下させたという報告もあります。

大腸がんが心配な方はぜひ大腸内視鏡検査を受け、ポリープがあれば切除してもらってください。自治体で実施される便潜血検査を受けられることも有用です。
当院では必要に応じて鎮静剤を使用することで、苦痛の少ない検査を心がけています。（本藤）